



寝屋川市美術協会会報
第13号 2010年



NEYAGAWA SHIBIKYO ART JOURNAL

会員名

平成22年度

会 長	小早川 協 右	守 田 集			
副 会 長	前 田 幹 雄				
総務 部長	森 岡 玉 翠				
書 記	野 村 嘉 平				
会 計	天 音 比 佐				
運 営 委 員	小 松 烈	竹 下 茂	田 中 一 夫	石 井 好 道	
	尾 垣 星 華	南 雲 ゆう子	坂 口 叡 治	阿久津 一 正	
	久 野 洋 一				
会 計 監 査	森 清 孝	西 山 昭 夫			
会 員	青 山 幸 生	秋 元 正 志	安 藤 敏 勝	伊 地 智 友 子	
	伊 藤 静 代	川 合 繁	川 口 紀 久 子	川 崎 稔	
	川 野 信 敏	久 保 穂 芳	後 藤 理 加	佐 藤 千 代 子	
	澤 田 夕 二 子	正 代 高 人	瀬 津 吉 三	田 内 康 雄	
	高 須 美 智 子	高 原 進 子	谷 平 富 士 子	辻 節 子	
	鳥 井 幸 子	中 西 直 子	中 平 嘉 代 子	西 田 他 家 夫	
	畑 森 富 美 栄	原 田 信 子	平 井 真 由 美	正 木 伸 子	
	松 浦 澄 江	森 本 カヨ子	安 田 文 男	山 田 満 世	
	倉 内 崇 之	藤 本 稔	※伊 郷 武 治	※高 槻 のぶ子	
※ 端 野 純 全					

※は本年度新入会員（順不同）

ご挨拶

会長 小早川 協右

寝屋川市美術協会も平成23年の新年度を迎え、会員の皆様には益々ご健勝にて作家としてのご活躍をされていることを心よりお慶び申し上げます。昨年は皆様の合意により寝屋川市文化連盟から退会をさせて頂き、美術の専門家として身軽になり、より高い志を持って寝屋川市と地域の文化向上と発展に寄与して参りたいと思います。その為には会員の皆様が趣味として絵を描くのではなく、美術家として作品に取り組んで頂くことが大切だと思っています。協会の年間行事は今迄通りですが、運営委員の皆様にも新しい考え方の企画で対応して頂いていますので、何卒一層のご協力ご支援の程お願い申し上げます。

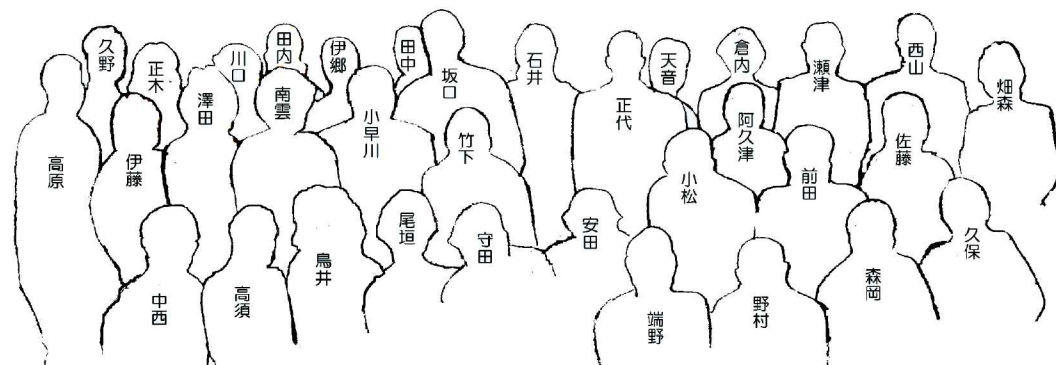
展覧会部長 前田 幹雄

寝屋川市美術協会会員の皆様、当協会の運営及び展覧会にご協力頂き、誠にありがとうございます。

市美協は年三回の既定の展覧会を開催いたします。一月にアドバンスの市民ギャラリーで全員出展の美術協会展。四月には総合センター一階でロビー展。秋には市民ギャラリーでの秋季展。秋季展は、出展希望者による30号以上の力作が、毎年約35点展示されます。

市民ギャラリーでの展覧会は、他の絵画展と比較しても常に多くの入場者数があります。多くの方に見てもらうことにより、一段と良い絵画を制作して頂ければ最高だと思います。また、総合センター四階ロビーの秀作展は三ヶ月毎の入替えて、会員の方々には最低年二回の展示案内が送られています。全員ふるって出展して頂ければ、もっと賑やかな展示になると思います。本年度はそれに加え市の公募による公益活動支援事業として、寝屋川市駅前での「駅前ギャラリー」という新しい試みも行われました。

今後とも皆様の一層のご協力をお願い申し上げます。



秀作展

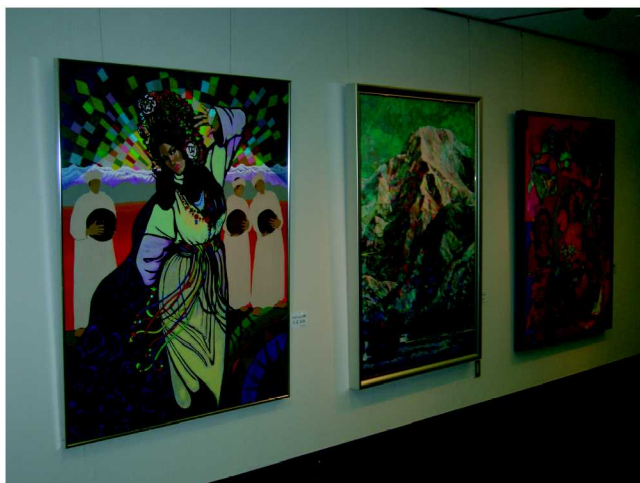
秋季展のまとめ

取材 秋元 正志

今年も恒例の秋季展を9/17～22に行いました。出品数35点のうち大作も何点か並び、自分の描きたいものを全面に出した作品ばかりで、活気のある展示となりました。身近な何気ないものや風景を、非凡な解釈で描きたいという動きも出てきました。

出品された皆さんの声です。

- 最近20年水彩画ばかり描いていました。今回は久しぶりに現場でスケッチをし、それを油絵にしました。廃棄跡の土の古さを表現したかった。
- 自宅付近でモチーフを温めていて、いつか描きたいと思っていた場所です。完成した作品を店の人に見てもらいました。店の人やお客さんにすごく喜んでいただきました。
- 風景の奥と手前の木立の距離感を出したかったが、その難しさに手こずりました。
- 同じ力が入った感覚で隅々まで描いてしまう癖があり、もっと主題と客体をはっきり表現できるようになりたい。
- 描きたいものを好きなのところに描く。批評はひとに任せています。
- 朝一番のバスで自宅を出て、電車を乗り継いで現場にきました。描いているときは水の変化に苦労しました。等々皆さん中々苦労されています。



滋賀県在原スケッチ日帰旅行 (11月29日)

研修部 守田 集

天高く晴れ渡り、最高のスケッチ旅行と心を弾ませる。参加者25名を乗せ、バスは開通後間もない第二京阪国道から滋賀へ向かう。久々の滋賀県だが、窓の景色も以前とは変わっているようだ。記憶の中の湖辺や古い建物に出会うと、なつかしさを感じる。

遅れてやってきた紅葉を目で追いながら在原に入る。魅力的なところに茅葺屋根が点在し、お年寄りが手を後ろに組んで散歩していた。数年前に訪れたときのそんな景色が思い返される在原だが、今では朽ち果てて雑草が覆うものもあり、何だか時代の流れを感じる。昨今は日本中どこへ行っても、懐かしい景色は減るばかりだ。

茅葺屋根がかろうじて残る在原の景色に向かう。スケッチを2枚ばかり終えたところだ。山裾に冷たい風と霧が出て、やがてそれが小ぬか雨に変わる。

寒空や しばれる顔に 舞う落ち葉



第1回駅前ギャラリーを実施して

企画委員会 石井 好道

昨年11月の日曜日、寝屋川市駅の東広場で第1回の「駅前ギャラリー」を実施しました。会員皆様のご賛同・ご協力いただきまして43点の作品が展示されました。

また、実演コーナーでは小早川会長、天音委員、小松委員らが似顔絵を描いて大変な人気でひっきりなしに希望者が続いていた。やはり駅前を通行する人は多く、奥まった場所にある「市民ギャラリー」よりずっと多くの市民に見てもらうことができました。屋外の開放感ある中で気軽に絵を楽しめたり作者と直に会話を交わすこともでき、思っていたような雰囲気づくりができたのではないかと感じました。まずは第1回として成功裏に終わったのではないのでしょうか。

観賞されている市民の方からは「一般市民や児童の作品も展示したらどうか」「学校以外の学習に役立つ」「体験写生コーナーも設けたらどうか」「作品点数がもっと多いほうが楽しめる」「1日だけではもったいない」などの次を期待する声を多数寄せられました。

今回の企画は寝屋川市の公益活動支援事業の補助金公募に応募することから始まりました。「駅前ギャラリー」の名称で企画案を練り5月末に提出、補助金審査委員会にプレゼンを行い9月に交付決定の通知を受けました。駅前広場に設営するに当たっては市の道路課の許可を得るのに難航しましたが文化・スポーツ振興課の協力で教育委員会の後援も取り付け使用許可を取りました。

第2回は4月に行う予定です。もっと明るくて広い場所の確保が出来るように市の担当と交渉し会員の作品を複数展示し、さらに一般市民や児童の作品や府下の美術愛好家の人からも作品を持ち寄ってもらう自由参加のイベントにしていけたらと思います。目標は大阪から京都までの広域のアーティストが集う寝屋川の街に！



ホームページ立ち上げ

当協会では広報活動として、ホームページを開設する準備をしています。会員皆さんの作品紹介はもとより最新活動の報告なども盛り込んでいく予定です。情報提供、ご意見などお寄せ下さい。詳しいことは後日お知らせします。

H.P担当は天音、川野、石井、久野、倉内です。

カサブランカ

正木 伸子

病床の友と一緒にのぞき込んでいた画集の中の絵に「いいね」と二人で顔を見合わせて笑った。

彼女と私は、それぞれに右肺、左肺の手術を同じ時期に受けていた。不安と痛みで眠られない夜中、横に寄り添ってくれた。二人でボケとツッコミの関係で傷口を押さえながら笑ってばかりいた。病室を抜け出しては主治医や看護師を困らせていた。

入院中は二人でお見舞いにいただいた花をスケッチした。花が好きな彼女のベッドの横はいつも華やかだった。

覗きこんでいた絵を指さして私は「こんな風に描けたらいいね」

「うん、私が好きな花よ。カサブランカ」

「なんて素敵な名なんでしょう。いつかこんな風に描けるといいね」

「そうね。きつと描けるよ」と彼女は言った。

今も私の描くカサブランカを空の上から見ている？

「絵」ってなんだろう

摂津 吉三

小学生のころ、田舎の我家は茅葺であった。クレヨンか水彩であったか忘れたが、一生懸命我家を描いたのを覚えている。学校に提出すると先生が県のコンクールに出展してくれていたらしい。すろと思いがけずに表彰状をいただいた思い出がある。

それから私は絵が好きになった。同時に絵が上手であると思いつ込んだ。

中学3年生の時、校内で絵の展覧会があった。自信作であった。しかしある画家が見学に訪れ批評していた。ある他者の絵は評価が高く私ののは良くなかった。

その違いは何故か当時分からずにいた。

それ以来55年プツツリと絵から遠ざかっていたが、定年退職後また絵を描きたくなり、守田先生の教室に入った。それから10年かなかなか上達しない。しかし今になって中学生の時のことが少し分かるような気がする。

それは一口に言って私の写実過ぎて個性がない、心を打つものがない。

他方、他者ののは自分の感性で独自のタッチで個性的に描いていた。

最近思うのはこの年齢でいまさら上手に描こう、みんなに評価をされようではなく、自分の感動したモチーフを自分の感性と個性で、力強く自己主張でき、しかもその過程が楽しい。そんな想いであります。それが難しい……。

ガラスのパレット

伊地智 友子

私が絵を好きになったのは幼いころ、父が油絵を年中描いていたからです。

父は京都で当時、梅原龍三郎の兄さんの下で友禅を描いていたようです。

幼い私は、父の仕事の分厚い図案帳や、三十センチ間隔に色とりどりの柄が次々続く反物を筆筒から出しては、何度も飽きずに見ていたものでした。

ある日私は朱色のフクリン(ウール)の着物を着せられモデルになりました。

デッサンの時には消しゴム代わりに食パンの切れ端をもらいました。

それから父はガラスのパレットで色の調合を始めます。

美しい色が魔法のようにガラスの上で混ざり合いました。

それがキャンバスに塗りこめられるのを、私は目をまあるくして見ていたと思います。

最近その大切な記憶に曲をつけてくださった方がいて、自分のCDが出来上がりました。

最初に聴いた夜に、嬉しくて、父が喜んでいる夢を見ました。

「お父ちゃん、ありがとう」

澤田 クニ子
第45回日春展(日展日本画部春季展)
入選「さむい朝」F50号

日々くり返される夕刻のカフェは都会の活気を感じる。和装あふいとした室内を暖色で表現、あわただしく人々が往来する外の空間を寒色で表現し、引き立て合う色調とした。



朝の通勤時間帯、自宅の二階窓越しに堂島駅。自分の生まれた町、育った町。毎日見ている風景を楽しく描かせていただいた作品となりました。



尾垣 星華
旺玄展 大阪市長賞
「林影」100号

悪戦苦闘の連続で完成迄五ヶ月余り受賞の知らせを手にした時は、感無量で胸が一杯だった。そして又多くの仲間から祝福をされ本当に嬉しくここに改めてお礼申し上げます。



後藤 理加
第62回全国西行動美術展
奨励賞
「自然の想い」F150号



後藤 理加
第62回全国西行動美術展
ホルペイン賞
「自然の想い」F150号



小松 烈
第37回創彩展 市長賞
「天地自然の想い」F100号

コンセプトは世界平和を願う天地自然の想 神秘さを色彩と形仏像を中心に空水森雲等を空想し作品にしました。



南雲 ゆう子
第37回創彩展 優秀賞
「卓上の詩」50号

移りゆく四季の山々や、美しく咲く花々を目にする作品にしたい。自信作は余り無いけれど、絵のある部屋で寛ぐのが至福の時です。



鳥井 幸子
第37回創彩展 特選
「ベネチアの旅」50号

潮風に誘われて、ヨットは波しぶきをあげながら通り過ぎて行った。出来る事なら、あの時の様にもう一度船に乗り、青い大空と、どこまでも続く大海原を駆けめぐりたいと思う。



田中 一夫
第23回国創展 国際美術創造会賞
「InG...」F100号

七十歳にして、なお続く我が人生夢は彼方にあり、追ひ求めて行きたいと思ひます。その想いをこの画に託しました。



編集部員:天音比佐 秋元正志 石井好道 久野洋一 倉内崇之 伊郷武浩 川野信敏
編集:寝屋川市美術協会
印刷:北東工業(株)
発行:平成23年3月